

ビデオを使用した術前オリエンテーション

—肺葉切除術を受ける患者を対象として—

Before the means that used the video the orientation

—Targeting the patient who receives the lobe of a lung resection means—

川上 貴子・丸山 公子・片岡 秀樹・島田いずみ・西山真由美

〈要 旨〉

手術を受ける患者に対しては、不安の軽減や身体的な準備を目的として、パンフレットなどを用い、術前オリエンテーションを行っている。より具体的にイメージできるように、ビデオを作製し術前オリエンテーションを実施した。ビデオを使用した術前オリエンテーションは術前や術後の経過などが具体的にイメージでき効果的だった。術前にある不安という人間の感情的な面を把握することは難しく、患者との信頼関係、患者様の訴えに耳を傾けることが重要であるとわかった。術前オリエンテーションについては、常に見直しをしていく必要がある。

〈キーワード〉

術前オリエンテーション ビデオ

〈はじめに〉

当病棟では呼吸器及び消化器疾患を持つ患者が入院され、その約2/3の患者に外科的治療が行われている。手術を受ける患者に対しては、不安の軽減や身体的な準備を目的として、パンフレットなどを用い、術前オリエンテーションを行っている。しかし、高齢者や初めて手術を受けられる患者には、用紙と口頭のみでの説明だけではイメージがつきにくく十分理解されていないのではないかと考えられた。そこで、より具体的にイメージできるようにビデオを作製し、術前オリエンテーションを実施したのでその結果を報告する。なおビデオは、バリエーションが少なく、クリエイティブパスにのりやすい、肺葉切除術について作製した。

〈研究方法〉

1. 研究期間 2001年9月～2002年1月
2. 対象 期間中に肺葉切除術及び縦隔腫瘍摘出術を受けた患者
3. ビデオ作製 以下の項目を入れ、約10分間のビデオを作製
 - 1) 呼吸訓練
 - 2) 必要物品
 - 3) 手術前日の処置
 - 4) 術衣着用・プレメディ
 - 5) 手術への移動
 - 6) 手術室内の様子
 - 7) 麻酔方法
 - 8) 術後帰室時の状態
 - 9) 術後の経過
 - 10) 退院後の注意点

処置の方法や目的などの説明をいれ、リラックスして聞けるように、BGMは静かなものを選択

して、編集を行った。

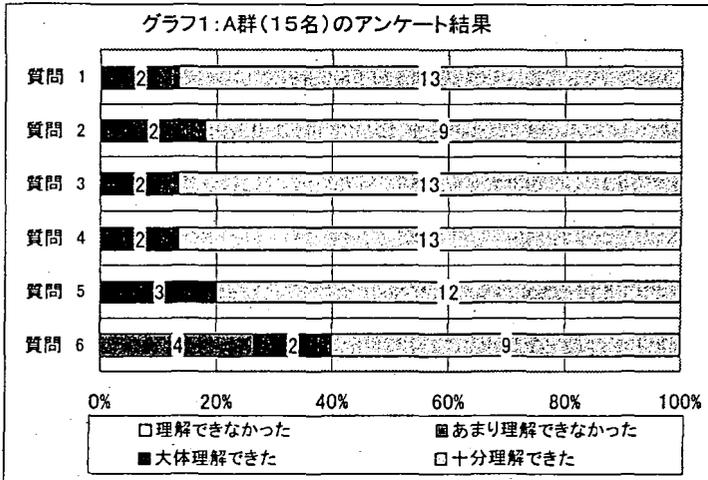
4. アンケート調査

- ・パンフレット使用のみで術前オリエンテーションを実施した患者（A群）とパンフレットとビデオを使用した患者（B群）に対し、アンケート調査を行う
 - ・術後1週間目に自由記載によるアンケート
 - ・理解度や不安などについて、A群とB群とを比較
 - ・アンケート内容

1) 必要物品	4) 手術当日の処置
2) 呼吸練習	5) 麻酔方法
3) 手術前日の処置	6) 手術後の経過
- 「不安」について

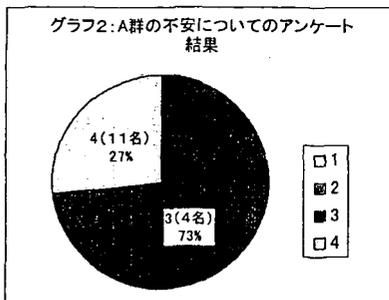
<結果>

アンケート結果において、A群では6項目中「必要物品」「手術前の処置」「手術当日の処置」「麻酔の方法」の4項目で、「大体理解できた」または「十分理解できた」と、15名全員が答えていた。しかし、「呼吸練習」で3名、「手術後の経過」で4名が「あまり理解できなかった」と答えており、「専門的な物品についてイラストなどを入れると良い」「呼吸練習の必要性をもっと説明してほしい」「呼吸練習について、口頭の説明だけでは分かりにくい」「手術後、管がたくさんついて驚いた」などの意見があった。「不安」については、「大体解消できた」11名、「十分解消できた」4名の結果だった。(グラフ1, 2参照)



<質問項目>

- 質問 1 : 必要物品について
- 質問 2 : 呼吸訓練について
- 質問 3 : 手術前日の処置等について
- 質問 4 : 手術当日の処置等について
- 質問 5 : 麻酔方法等について
- 質問 6 : 手術後経過について



- 1 - 不安は全く解消できなかった
- 2 - 不安はあまり解消できなかった
- 3 - 不安は大体解消できた
- 4 - 不安は十分解消できた

B群では6項目全てにおいて、「大体理解できた」または「十分理解できた」と、4名全員が答えている。「不安」については、「大体解消できた」3名、「十分解消できた」1名の結果だった。また、「手術室の雰囲気」については、全員が「十分理解できた」または「大体理解できた」と、答えていた。その他「手術前のイメージに比べ、経過が早くてびっくりした。」「何を今自分がしているのかが分かった」などの意見があった。

<考察>

今回はB群の対象人数が少なく、両群の比較はできなかった。しかし、A群では、「呼吸練習」については「口頭の説明だけではわかりにくいので、イラストなど入れると良い」と答えていたが、B群では、全員が「理解できた」と答えており、ビデオを見ることで、実際どんな様子で練習すればよいかイメージでき、行いやすかったと思われる。また、「手術後の経過」においても、A群では、「あまり理解できなかった」と答えた患者がいましたが、B群ではいなかった。

口頭と紙面だけではインパクトが少なく、患者の記憶に残りにくいが、ビデオでは画面を通じて視覚、聴覚の面でイメージができ、理解しやすかったのではないかと考えられた。手術を受ける患者にとっては、何もかもが初めての経験である。手術室へ到着したときの様子、手術室内の様子、手術室から病棟に戻ってきたときの様子、手術後の経過など、一連の流れをイメージし、自分を映像の中に置きかえることによって、術後の日常生活動作などがスムーズに行えていくと考える。

「不安」に関しては、ほとんどの患者が、「不安は大体解消できた」と答えている。術前オリエンテーションを行うことにより、患者自身の手術に対する心の準備ができていると考えられた。

しかし、不安という人間の感情的な面を把握することは難しく、患者との信頼関係、患者の訴えに耳を傾けることが重要であると感じた。

またビデオの上映を患者と共に看護師がみることにより、看護師自身も手術後の一連の流れをイメージでき、看護師間での指導内容の性なくなっていくと考える。

<まとめ>

1. ビデオを使用した術前オリエンテーションは、術前や術後経過などが具体的にイメージでき、効果的だった。
2. 術前オリエンテーションについてはつねに見直しをしていく必要がある

<参考文献>

- 1) 橋本真理, 他: 高齢者に対するビデオを用いた術前訪問の効果, 第26回日本看護学会論文集: 老人看護, P84-86, 1995 (10)
- 2) 大塚彩, 他: THA患者に対する術前オリエンテーション, 整形外科看護, 5巻1号P90-93, 2001 (01)
- 3) 相馬知子, 他: 経尿道的前立腺切除術の術前オリエンテーションにビデオを活用して, 看護実践の科学, P76-78, 1993 (4)
- 3) 織田小津枝, 他: 不安の緩和と危険防止をめざして, OPE nursing Vol12 No. 9 P89-94